2016年早春塾長メッセージ	2016 年 1 月 22 日（金）

開倫塾
塾生・保護者・地域社会の皆様

開倫塾で「効果の上がる学習方法」を身に着け、
「学校成績の向上」と「希望校合格」を果たそう

開倫塾
塾長　林明夫

お読みになりやすいように Q and A の形で書かせて頂きます。参考になると思われるところには、アンダーラインなどをお引きになりながら、どうか、ゆっくりとお読みくださいますよう、お願い申し上げます。

はじめに

Ｑ：開倫塾の目的は何ですか。

Ａ：塾生の皆様が成績アップをし、「学校成績の向上」と「希望校合格」を果たすことです。

＊開倫塾は学習塾でありますので、開倫塾で学ぶ皆様を「塾生」と呼ばせて頂きます。御了承ください。

Ｑ：成績アップをし、「学校成績の向上」と「希望校合格」を果たすにはどうしたらよいのですか。

Ａ：（１）大切なことが 2 つあります。

① 1 つ目は、「学習方法(仕方)」を身に着けることです。

② 2 つ目は、「読解力」を身に着けることです。

＊「身に着ける」と「身に付ける」はどちらも正しいですが、開倫塾では「身に着ける」を用いますので御了承ください。

（２）「効果の上がる学習方法」を身に着けると同時に、「読解力」を身に着けることが、成績アップのポイントです。2 つ目の「読解力」から、第 1 部で少しずつ御説明いたします。第 2 部は効果の上がる学習方法です。

第１部　読解力の身に着け方を考える

Ｑ：なぜ成績アップには「読解力」を身に着けることが大切なのですか。

Ａ：（１）当たり前のことですが、「学校成績の向上」のためには、「学校の定期試験」でよい点数を取ることが求められます。

（２）また、「希望校合格」のためには、「入学試験」でよい点数を取ることが求められます。

（3）「学校の定期試験」の問題も、「入学試験」の問題も、かなり分量が多く、特に、入学試験の問題は、全教科ともかなり多くの量の文字を、試験時間内にすべて正確に読み終え、正解を導き出さなければなりません。

（4）「大学センター試験」の問題、「県立高校」や「私立高校」の入学試験の問題、「私立中学校」や「公立中高一貫校」の入学試験の問題を、是非、御覧ください。何ページもの問題を短い試験時間内に読み解き、正解を導き出さなければならないことがよくわかります。

（5）そこで求められるのが「読解力」です。なぜか。

（6）これから、2019 年から 2020 年にかけての大学入試改革など、高校入試や中学校入試などのすべての入学試験の改革が行われます。以前のように、知識偏重で、重箱のスミをつつくような出題はほとんどなくなります。その代わり、資料や作品などをよく読んで考えさせるという、よい問題が数多く出題されるようになります。

　ただし、問題の文や量が少しずつ長くなっています。そこで、短い試験時間内に、大量の文字や文章を正確に理解し、自分の力で考えて正解を導くという「読解力」が不可欠となっています。

Q：「読解力」を身に着けるには、どうしたらよいのですか。

A：「辞書」と「読書」と「新聞」の活用の 3 つを少しずつでも身に着け、同時併行して行ってください。第 1 は、「辞書の活用」です。

（1）「学校の教科書」や「開倫塾のテキスト」、「教材」や「問題集」、「模擬試験」、入学試験の「過去問」、「予想問題」、英検や漢検、数学検定などの教材や過去問、予想問題などを学習していて、少しでも意味のわからない「ことば」があったら、「気持ちが悪い」と思って、「必ず」辞書を用いて意味を調べてください。（辞書の活用の第 1）

（2）次に、辞書で調べた「ことば」の意味を必ず「意味調べノート」に書き写してください。

（3）その「ことば」がどのような文の中で用いられたのか、文脈も大事です。調べた「ことば」が用いられている文の一部だけでも書き写してください。

（4）最後に、「意味調べノート」に書き写した「ことば」と、辞書を用いて調べた「ことばの意味」、「ことばが用いられている文章の一部」を、小さな声を出して読み、書く練習をしてその場で覚えてしまうことが大切です。

（5）このようにして、1 日に 10 個、新しいことばを調べ、その意味と用い方を身に着ける。そうすれば、10 日で 100 個、1 年で 3650 個、3 年で約 1 万個のことばが身に着きます。日本語と同様に、英語もこのように学習していくと、知っていることばの数、身に着いていることばの数がどんどん増えていきます。

（6）「読解力」を身に着ける第一歩は、このような方法での「辞書の活用」です。試験問題を含めこれからいろいろなものを読んでいくのに、知っていることば、身に着いていることばの数が少ないと、「理解」することがなかなか難しいからです。

＊各教科の入学試験の問題を解くのに、各教科に出てくる大切な「語句」だけでは問題を解くことができません。数多くのことばを知り、身に着けておく必要があります。

Ｑ：「読解力」を身に着けるために大切なことの第２は何ですか。

Ａ：「読書」です。

（1）少しずつでもよいですから、本を毎日読むこと。最低でも 1 か月に 1 ～ 2 冊は読むこと。開倫塾の小学生、中学生、高校生の皆様の多くは、将来、大学や大学院に進んだり、社会で活躍する方々ばかりと期待していますので、できれば 1 週間に 1 ～ 2 冊、1 年間に 50 ～ 100 冊は本を読みましょう。

（2）どんな本を読んだらよいか。学校の各教科の教科書に出ている本や作家の本が一番のお勧めです。例えば、教科書で夏目漱石の作品の 1 つを学習して気に入ったら、夏目漱石の作品をできるだけ全部読んでみましょう。少し難しいですが、森鴎外が気に入ったら森鴎外の作品を全部読む。芥川龍之介の作品、例えば「トロッコ」が気に入ったら、芥川龍之介の短編を全部読む。これも 1 つのやり方です。

（3）孔子の教えを弟子たちがまとめた「論語」の一部分を教科書で学び、孔子の生き方や「論語」に興味を持ったら、論語の 499 章のすべてをゆっくりと読んでみる。孔子の生き方を書き記した本を探して読んでみる。これも面白いと思います。

（4）このようにして、日本の作品だけではなく、中国や外国の古典といわれる作品をじっくりと読み親しんでいくと、「時空、つまり、時間と場所を超えた作品との対話」が可能となります。

（5）同じ本は、少し時間をずらして、何回も読み直す。そうすると、よく読んでいなかったところがたくさんあることに気づきます。同じ文章や内容でも、また違った感じ方や理解ができます。これぞという本、特に古典と呼ばれる本は 5 ～ 6 回じっくりと読むことをお勧めします。

（6）同じ本を何回も読んで気に入ったところがあったら、たとえ 1 行でもよいですから、「書き抜き読書ノート」をつくり、書き抜いておくことをお勧めします。折に触れ、この「書き抜き読書ノート」を繰り返し読み直すことで、皆様の「人格」の一部がつくられると思われます。

（7）このような本格的な読書をし、毎日 1 ～ 2 時間集中して読書に没頭できるようになると、「読解力」が身に着いたといえます。大量の文字や長い文章で成り立っている入学試験の問題も、最後まで自分の力で読み解くことができるようになります。

Ｑ：読解力を身に着けるために役立つことの第３は何ですか。

Ａ：「新聞」の活用です。

（１）毎日各家庭に配達される新聞は、情報の宝庫。ありとあらゆる分野の最新の情報がコンパクトに手際よくまとめられています。

（２）世界や日本、身近な地域で今何が起きているのか、これからの人類や日本、この地域で取り組まなければならない課題は何かがよくわかります。それだけではなく、健康に生きるための方法、スポーツの結果や TV 番組の紹介、人生相談まであります。私は、「数独」が好きなので、毎週土曜日には日本経済新聞、日曜日には読売新聞の「数独」を楽しみにしています。

（３）私は、小学 4 年生のクラス担任の岡典子先生から小学 4 年生になったら新聞を毎日読みなさいと教えられ、以来、ずっと新聞を読んでいます。とても勉強になりました。小学 4 年生以上の開倫塾の塾生の皆様には、新聞を毎日 30 分読むことをお勧めします。

（４）新聞を読むと、どのような力が身に着くのか。新聞は本来「社会の番犬（watch dog）」として、社会が取り組むべき課題を、「これが問題だよ」と社会の番犬のように鋭く指摘する役割を担っています。十分に調査をした上で報道する「調査報道」を基本として、その主張を「社説」として展開、「世論」の形成の主役となることを社会的使命としています。

　そこで、新聞を毎日のように丁寧に読み続けると、世界や日本、地域など世の中で現在起きていることがよくわかると同時に、社会をよくするために、皆で取り組まなければならない課題が少しずつ「理解」できるようになります。

　「自分で考える力」や、目の前で起きていることについて、これはちょっとおかしいのではないかと考える力、つまり「批判的思考（critical thinking クリティカル・シンキング）能力」が少しずつ身に着くのではないかと私は考えます。

（５）同時に、新聞を毎日読んでいると、新聞に書いてある記事の内容を、かなり短い時間でどんどん「理解」できる力、つまり「読解力」も確実に身に着きます。

（６）そこで、気に入った記事や興味のある記事があったら、ハサミやカッターで切り抜いて「スクラップブック」にのりやセロハンテープで貼り付け、コメントを書き込むことをお勧めします。折に触れ、今までにつくった「スクラップブック」を読み返すと、興味・関心や考えが深まります。自分の考えを形づくるのに役立ちます。

（７）各新聞社はいろいろな社会的な課題について独自の見解のもとに報道をします。それが各新聞社の特長です。ですから、1 つの新聞だけを何年も読むのもよいですが、時々は、できれば 1 週間に 1 回ぐらいは、図書館などにある普段家で読んでいるのとは別の新聞にも是非目を通してください。同じテーマでも少し違った角度でものを見ることがあることがよくわかります。

（8）本を 1 日 30 分以上じっくりと読むこと、新聞を 1 日 30 分以上じっくりと読むことが、辞書を用いての意味調べと同様に、「読解力」を身に着けるのに、最も有効で確実な方法だと確信します。

Q：受験生も辞書を用いて意味調べをしたほうがよいのですか。受験生も本や新聞を毎日30分以上読んたほうがよいのですか。

A：（1）受験生こそ、各教科のテキストや筆記用具などといっしょに、「辞書」、読書用の「本」、「新聞」をいつもカバンの中に入れておき、時間があれば、いや、時間をつくって「辞書は引いて引いて引きまくる」「本と新聞は読んで読んで読みまくる」ことをお勧めします。受験の前日や当日も「辞書」を引き、「本」と「新聞」を読んでください。

（2）各教科の教科書や参考書の復習とともに「辞書」を引き、「本」や「新聞」を読むことで、入学試験に耐えられる「読解力」が身に着くからです。

（3）「読解力」が身に着けば身に着くほど、どのように難しい内容の問題でも、「問題本文」や「設問」、「選択肢」の内容が、短時間で正確に「理解」できるようになります。簡単な問題は超スピードで解けるようになります。考えさせる問題や難問に挑戦する、時間的な余裕を生み出すことができます。

（4）入学試験だけでなく、学校の定期試験や実力試験、模擬試験、英検や漢検、数学検定・算数検定などの問題も、かなり長い、文字数の多いものがほとんどです。それらを短い試験時間内に、最後まで確実に「理解」しない限りよい得点は期待できませんので、合格には「読解力」が欠かせません。

（5）開倫塾の塾生の皆様には、このような厳しい「現実」を真正面から受け止め、自分の未来は自分の力で切り開いて頂きたい。そのために、「辞書」と「読書」と「新聞」を十分に自分のものとして身に着け、活用し、「読解力」を身に着けて頂きたい。そう強く希望いたします。

（6）開倫塾では、3 月 17 日(木)までの 1 か月半の期間を「第 2 回読解力アップコンテスト」といたします。

①「意味調べノートコンテスト」

②「書き抜き読書ノートコンテスト」

③「スクラップブックコンテスト」

の 3 つのコンテストを実施して、皆様が「辞書」と「読書」と「新聞」を活用して「読解力」を身に着けることを大いに奨励しようと考えます。塾長がすべて直接審査し、熱心な取り組みをした塾生の皆様と校舎には、塾長賞を授与いたします。形式は自由です。自分のノートを用いて、自由に①～③の「ノートブック」を御自分のためにおつくりください。でき上がった作品は 3 月 25 日までに校長先生に提出してください。

第２部　効果の上がる学習方法を考える

Ｑ：成績アップのために「読解力」を身に着けることは第１部でよくわかりました。それでは、第２番目の「学習の方法」を身に着けることについてわかりやすくお話ください。

Ａ：わかりました。

（１）学校や開倫塾の同じ授業を聞いて、テストでよい成績を取る人もいれば、なかなかよい成績が取れない人もいます。よい成績を取るためにはどうしたらよいか。その答えの第 1 が、「読解力」が身に着けることです。なぜなら、同じ授業を聞いても「読解力」が不足していると、教科書や教材に書いてあることや、黒板に書かれたことがよくわからないことがあるからです。また、先生の授業がよくわからないこともあるからです。この対策は、第 1 部でお話しました。

（２）よい成績を取るための第 2 の答えは、「学習の方法」を身に着けることです。学習の方法が身に着いていないと、いくら学校や開倫塾で素晴らしい授業を聞いても、なかなかよい成績が取れない、よい成績に結びつかないことがあるからです。

Ｑ：そこで、第２部では、「効果の上がる学習の方法」をお話いたします。どのような「学習の方法」を身に着ければよいとお考えですか。

Ａ：（１）お伝えしたいことがたくさんあるので、かなり長くはなりますが、ゆっくりと、丁寧に御説明しますので、どうか焦らないで、これからしばらくの間ゆっくりとお読みください。筆記用具を用意し、大切と思われるところには、文の下に線を引きながらお読みくださいね。

（２）学習を①「理解」、②「定着」、③「応用」の 3 つの「段階」に分けて、おのおのの「段階」にふさわしい「学習の方法」を考えると「効果の上がる学習」ができると私は考えます。そこで、学習を 3 つの段階に分けて、それぞれの方法をまとめました。私はこれに「学習の 3 段階理論」と名付け、30 年以上にわたって皆様にお伝えし続けています。

＊開倫塾では「顧客(お客様)」を「塾生」「保護者」「地域社会」の皆様と「定義」しております。「学習の 3 段階理論」を活用して皆様に学力を身に着けて頂き、塾生の皆様の学力向上と、地域の教育力向上に少しでもお役に立てればと希望いたします。

Ｑ：「学習の３段階理論」を具体的に説明してください。第１番目の「理解」とは何ですか。

Ａ：「理解」とは「うんなるほど」とよくわかること、腑(ふ)に落ちること、納得することです。

（１）「理解」には①「授業の前」と②「授業中」と③「授業の後」の 3 つの場合があります。

（２）「授業の前」に授業の内容の理解をすることを「予習」といいます。せっかくですから、予習について少しお話します。

（３）私から皆様にお聞きします。予習は、何のためにするとお考えですか。

（4）私は、「予習はよくわからないことをはっきりさせて、授業に臨むために行うもの」だと考えます。

（5）このように予習の目的をはっきりさせると、「よくわからないところをはっきりさせて授業に臨むために行うことが予習の目的」ですから、予習をするときには、授業で用いる「教科書」や「教材」、「問題集」などをスミからスミまで徹底的に「理解」することが一番と考えます。

Ｑ：授業で用いる「教科書」や「教材」「問題集」などはどのように予習したらよいのですか。

Ａ：（1）学校や開倫塾の先生の授業を受ける熱心さで、教科書などに書いてある一字一句を丁寧によく読み、どのような内容か「うんなるほど」とよくわかる、納得するまで読み込むことです。

（2）読んでいて意味がわからない「ことば」があったら、「辞書」を用いて調べる。「辞書」で調べたことは、その「ことば」が使われている文章といっしょに「意味調べノート」に書き写す。

（3）書き写した「ことば」とその「意味」は何回か声を出して読む、つまり音読すること。書き取りもして、読み方と書き方をその場で覚えることが大事です。

（4）「ことば」は文脈(コンテキスト)の中で用いられますから、その「ことば」が用いられている文章やその文章の一部もいっしょに「意味調べノート」に書き写す。「ことば」の意味といっしょに、その「ことば」の用い方も身に着けることが大事です。

Ｑ：どのような「辞書」を用いたらよいですか。

Ａ：（1）「国語辞典」と「英和辞典」は必ず手元において、いつも使ってくださいね。紙の辞書でも電子辞書でも OK です。

＊大学などに進学をすると、辞書持ち込み可の試験が時々あります。電子辞書などにはコンピュータ機能がついているものがあるため、持ち込み不可のことがあります。いつも電子辞書を使っていると、紙の辞書でパッパッパッと意味を調べることが難しい人がいますので、紙の辞書にも親しんでおくことをお勧めします。

＊家で用いるときは紙の辞書、学校などに持っていくのは電子辞書などと、辞書を使い分けている人もいますよ。

（2）「辞書」で調べても意味がよくわからないことばや固有名詞はどうするか、そんなときにお勧めしたいのは、「教科別の用語集(ようごしゅう)」と「教科別の学年別参考書」です。辞書で調べてもよくわからない語句が出てきたら、「用語集」と「参考書」で調べてくださいね。

（3）調べた内容は「ノート」に書き写しておきましょう。

Ｑ：「教科書」や「教材」、「問題集」の問題は予習のときに全部、自分で解いたほうがよいのですか。

Ａ：（１）「例題」「類題」「練習問題」「基本問題」「応用問題」「実力テスト問題」「章末問題」「予想問題」などの自分で考えて解ける問題は、「ノート」に問題を書き写した上で、どんどん解くことをお勧めします。

（２）「教科書」や「教材」、「問題集」に解答を「書き込む欄(らん)」があっても、そこには書き込まずに、すべて「ノート」に書き込むことをお勧めします。

（３）一度答えを書き込んでしまうと、問題を何回もやり直すときに不便だからです。

＊成績を上げるコツは、同じ問題を繰り返しやり直すことですので、そこに答えが書いてあるととても不便です。

（４）いくら考えても自分で解けない場合は、解答を見て、なぜそのような答えになるのかを自分の力で考えることが大事です。解答を見てもなぜそのような答えになるかがわからないときは、そのままにして、しばらくたってから、また挑戦してみましょう。それでもわからなかったら、持っている参考書で調べる。それでもわからなければ、図書館に行って調べることをお勧めします。

（５）このようにして、教科書や教材、問題集をスミからスミまで自分の力で学習し、よくわからないことをはっきりさせてから授業に臨む。これが「予習」です。この予習の方法は、中学校や高校だけでなく、皆様が高校を卒業した後に大学や短期大学、専門学校、専修学校に進学したり、大学等を卒業して大学院に進学した後にも役立つ学習方法です。

＊もっといえば、この「よくわからないことをはっきりさせてから授業に臨む」という「予習方法」は、日本で最も入学が難しい大学のトップクラスの学生が行う学習方法です。社会に出てからも役立つ予習の方法です。開倫塾の塾生の皆様は、中学・高校の時代からこの予習の方法を身に着け、大学や大学院に進学したり、社会に出て活躍してくださいね。

（６）このように学校や開倫塾の授業の前にできるだけ自分の力で「予習」を行い、「理解」に励んでください。

Ｑ：それではお聞きします。どのくらい先まで予習をすればよいのですか。

Ａ：（１）よい質問です。毎日コツコツと少しずつ、明日の授業の範囲だけ「予習」するというのも 1 つの考えです。是非、実行してください。

（２）ただ、一番お勧めしたいのは、その学年の授業が始まる前に、その学年の内容をすべて「予習」し終えてしまうことです。

（３）4 月の新学期がスタートし、学校の教科書が手に入ったらどんどん予習を始め、ゴールデンウィークが終わるくらいまでに、その学年の教科書を 1 冊分すべて予習し終えてしまうことを

お勧めします。

（4）東京都の JR お茶の水駅から歩いて 10 分ぐらいのところに三省堂本店という書店があります。その 6F に「学校教科書の販売コーナー」がありますので、元気な人はこれから使用する教科書を買い求め、好きなだけ「予習」に励むことをお勧めします。

＊三省堂から出版されている教科書だけでなく、小学校から高校までの代表的な教科書が販売されています。

（5）「ピアノ」や「スイミング」、「習字」や「そろばん」と同じで、基礎的な学習をしっかりと積み上げながら、興味、関心、意欲のある自分の好きな教科をどんどん先へ先へと勉強してください。勉強に遠慮は一切不要です。

（6）ただし、不得意な教科やよくわからないところがある教科は、よくわからない学年まで遡(さかのぼ)って学び直すことが大切です。

①たとえ中学 3 年生や高校生でも英語がサッパリわからなかったら、中学 1 年の初めからやり直すことが大事です。高校 3 年生で漢字が不得意なら、小学 1 年生からやり直す、漢検 10 級の問題集から再スタートすることが大事です。

②よくわからない学年まで遡って学び直すことを、私は「遡及(そきゅう)学習」といっています。

③うんなるほどとよく「理解」できるようになるまで、「遡及学習」を丁寧に行ってください。

Q：授業での「理解」はどのようにしたらよいのですか。

A：（1）一番大切なのは、授業に出席し、先生の授業をお聞きすることです。

①遅刻・欠席・早退があると先生の授業をすべてお聞きすることができませんから、授業での「理解」が難しくなります。病気ややむを得ないとき以外は、できるだけ遅刻・欠席・早退をしないようにしてください。

②授業に出席していても、隣の人や近くの人と私語(おしゃべり)をしたり、授業中に席を離れて歩きまわったりしては授業での「理解」が難しくなります。スマホ・ケータイ・ゲームなどをしたり、外を見て授業以外のことを考えたり、居眠りをしたりしても授業での「理解」は難しくなります。

③座席が自由な場合には、あまり後ろの席に着席すると、先生の授業がよく聞こえないことや、先生が黒板に書くことがよく見えないこともあります。座席が自由の場合には、できるだけ早く教室に到着し、一番前の席に着席すると授業での「理解」に役立ちます。

＊開倫塾の塾生の皆様の多くは、高校を卒業すると大学などに進学なさいますが、大学などの授業の多くでは、着席は自由です。大学などの授業に出席するときに大切なのは、でき

るだけ早めに講義などのある教室に到着して、先生の授業が一番聞きやすい一番前の席に着席することです。そうすると、妨げるものがありませんから、先生は自分一人のために授業をしてくれるような気持ちになり、授業がよくわかり「理解」できます。成績がよい人ほど一番前、最前列の席でいつも授業を受けているのが大学や大学院の「常識」です。

＊社会人になっていろいろなセミナーや勉強会、研修会、会合に参加するときも、少し早めに会場に到着し、最前列の席にいつも着席することを心がけると内容がよくわかります。

Ｑ：教室や会場に早く行って何をしたらよいのですか。

Ａ：（１）先生が早く来られたら、先生に挨拶し、少しだけでもお話して、これから教わる先生と少しずつでも仲良くなりましょう。

（２）それまでの授業内容の「ノート」や「テキスト」をもう一度読み直し、頭に入れてから授業に臨むこと。

（３）一番よいのは、「予習」した内容をもう一回振り返り、「何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨む」ことです。

Ｑ：授業中にしたほうがよいのは何ですか。

Ａ：3 つあります。

（１）手を机の上に置き、先生の目と口元を見ながら先生のお話を一語一句聞き漏らさないように、真剣に聞くことが第 1 です。

（２）大切と思われることは、すべてノートにメモをし続けることが第 2 です。

①先生が黒板に書いたことはすべて書き写すこと。

②先生がお話したことの中で、大切と思われることはすべてノートにメモをし続けること。

③授業中に解いた練習問題などの問題は、「問題文」と「解答」 をできるだけ丁寧にノートに書くこと。

④「授業は熱心に聞き、ノートは取って取って取りまくる」ことをお勧めします。

⑤ノートを取らないでじっと授業を聞くだけにしたほうがよいという人もいますが、余程もの覚えがよい人以外は、ノートをできるだけ取り続け、授業後にノートを整理し、ノートに書いたことを身に着ける（定着させる）ことをお勧めします。授業中に先生のお話をお聞きして、ああ、これはこういうことなのかと「理解」しても、そのことをノートに書いておかないと、時間が経つにつれて忘れてしまうことが多いからです。

㋐大切なことはノートに取る

㋑ノートに取り、後で学習しやすいようにノートを整理する
㋒整理したノートをよく身に着ける

・この㋐～㋒のステップが大切です。「ノートを取っても後で勉強しない。だから、ノートを取らない」というのはあまりお勧めできるやり方ではありません。ノートを取り、それを整理し、何回も学び直し、自分のものにするという学び方は、人類の大発明です。大いに活用してください。「ノートを取ることができるのは大切な能力」です。では、お聞きします。皆様は、すべて英語での授業のノートが取れますか。すべてフランス語や中国語、スペイン語、ハングル語、ロシア語での授業のノートが取れますか。日本語の授業のノートはよく取れるが、すべて英語の授業のノートは少ししか取れない。他の言語のみの授業ノートは全く取れない方が大半なのではないでしょうか。

・なぜすべて日本語の授業はノートが取れるのでしょうか。その理由は、「日本語の授業で大切なことをノートに取る能力」が皆様にあるからです。
・なぜ、英語以外の外国語での授業のノートは取れないのか。その理由は、「外国語での授業のノートを取る能力」がないからです。
・なぜすべて英語の授業のノートが少しだけ取れるのか。その理由は、「英語の授業のノートを取る能力」が少しだけあるからです。

・このように、授業中に大切なことをノートに取れるのは、大切な能力なのです。「言語能力」には「読む」「聞く」「話す」「書く」など 4 つの能力があるといわれています。授業中に大切なことをノートに取り続けることができるのは、「読む」「聞く」と「書く」能力をフル活用した最も高い水準の言語能力だと考えます。

・授業の大切なことをノートに取ることは、仕事や社会での生活で大切なことを「メモ」に取ることと直結します。「仕事はメモで身に着ける」という本が出ているくらい、仕事をするときには大切なことをメモに取り、そのメモをよく見直し、仕事の手順を考えることが大切です。

・例えば、大切な打ち合わせをしたり、約束をしたりしたときには、その内容を詳細にメモに取り、その打ち合わせに参加した人全員が確実に実行に移すことが求められます。

・メモを取らずに打ち合わせに参加していると、その内容をすべて覚えられないことが多く、その結果、うろ覚えでは約束が果たせませんので、皆さんに迷惑をかけ、信用を失ってしまうことになります。メモを取ることは仕事の上で最も大切です。

・メモを取り続けることは、仕事を覚えるのにも大事です。普通、どのような仕事にもよく理解した上で身に着けなければならない作業が 200 以上あるといわれています。その 1 つ 1 つについて、学校の教科書のように仕事の手順がわかりやすく書かれた文書(「マニュアル」

といいます)があるとは限りませんので、メモを取りながら仕事を覚えることが求められます。

・人から聞いた話の大切なところをノートやメモに取ることはとても高いレベルの能力なので、すぐにはできません。学校や開倫塾の授業でノートを取ることを自分の能力として少しずつ身に着けておくことをお勧めします。

・各教科の「ノート」は1年分を1冊にまとめ、「ノートブック」にすることをお勧めします。「ノート」は英語で「notebook」といいます。自分でつくり上げた「ノート」を自分なりの1冊の本、「マイ・ノートブック My Notebook」として、学校でのテストや自分の勉強に役立ててください。学校を卒業後も折に触れて読み直し、必要と思われることを書き加え続けば、一生の宝物となります。

・ページが足りなければ、のりで貼り付け、付け加えていくこともノートブックの大切な工夫です。大型のポストイットも役立ちます。

Ｑ：なるほど、授業後の「理解」は「ノート整理」として行えばよいのですね。「ノート整理」以外、授業後の「理解」で必要なことはありますか。

Ａ：(１)たくさんあります。学校や開倫塾の授業など、どのような授業も「年間の授業時間」が決められています。ですから、授業中に学校の教科書や開倫塾のテキスト、教材、問題集の１ページから最後のページまでをスミからスミまで先生がわかりやすく説明したり、詳しく解説することは考えられません。そのため、授業時間中に触れられなかった内容や資料、問題がたくさんあると思われます。

(２)そこで、大切なことは、授業が終わった後に、授業中に触れられなかった内容を、先生の授業をお聞きするのと同じ熱心さで、一語一語がうんなるほどとよくわかるまで、納得するまで丁寧に「読み込む」こと、そして、「理解」に励むことです。

(３)授業中に先生が解答を説明しなかった「問題」があったら、自分の力ですべてノートに解いてみること。解き終わったら、解答・解説をよく読み、先生が黒板に書いたことをノートに書き写すのと同じ熱心さで、必要なことをノートに書き写すことです。

(４)よくわからない「ことば」があったら、「辞書」や「用語集」、「各教科の学年別参考書」を用いて、わかるまで調べること。調べたことはすべてノートに書き写すことです。「予習の方法」と全く同じです。

(５)このようにして、授業の範囲についての「理解」を図ってください。

Ｑ：「理解」したら、次はどうしたらよいのですか。

Ａ：（１）学校の成績を上げ、希望校に合格するためには、「理解」したことを、スミからスミまですべて「身に着ける」、つまり「定着」させることが求められます。

（２）授業中に先生の授業内容を「うんなるほど、よくわかった」といくら「理解」しても、また、授業前の予習や授業後の勉強で、「教科書」や「教材」、「問題集」の内容を「そうか、そういうことか」と「理解」しても、「うろ覚え」で、すべて正確に身に着いていないと、つまり「定着」していないと、テストではよい点数が取れません。「理解」した内容の「定着」なしでは、学校の定期試験でも希望校の入学試験でもよい点数、合格に必要な点数が取れません。「定着なくして、学校成績の向上なし、希望校の合格なし」といえます。

（３）「理解」した内容は、スミからスミまで確実に覚え込むこと、身に着けること、「定着」させることが大切です。「定着」「定着」「定着」、「理解」した内容の「定着」こそが学校成績の向上と希望校合格の「キー・ポイント」、「要諦(ようてい)」なのです。

Ｑ：では、どのようにして「理解」した内容の「定着」を図ったらよいのですか。

Ａ：これからお示しする 3 つの練習を徹底的に行うことです。

（１）「定着のための 3 つの大切な練習」ですから、私はこれに「定着のための 3 大練習」と命名しました。

（２）「練習は不可能を可能にする」という教えがあります。「定着のための 3 大練習は不可能を可能にする」と確信します。

（３）「定着のための 3 大練習」は「学校成績を大幅に向上」させます。どんなに難しい学校の入学試験や検定試験、国家試験も「定着のための 3 大練習」を確実にやり通せば、必ず合格します。一度「理解」した内容を「定着のための 3 大練習」によって確実に身に着けることは、学力を向上させ、皆様の人生の選択肢を一気に広げます。「多様な選択肢のある人生を歩む」ことを実現します。

（４）現代は知識基盤社会ですから、様々なことを学び続け、学んだことを十分に「理解」し、「理解」したことを身に着け続けることが絶えず求められます。「理解」が第 1。「理解」したことを確実に「身に着ける」、つまり「定着」させることが第 2。「定着」させたことを用いることが第 3 に大切です。しかし、あやふやな記憶、うろ覚えでは「理解」したことを「活用」することはできません。「定着」させることが大事です。

Ｑ：それでは、お聞きします。「定着のための３大練習」の第１は何ですか。

Ａ：（１）一度「理解」したことをスラスラとよく読めるようになるまで何回も何十回も「声に出して読む練習をすること」です。これを「音読練習」といいます。

（2）「何回読めばよいのですか」という質問がよくあります。「スラスラとよく読めるようになるまで繰り返し、繰り返し読む。できれば、何も見ないでスラスラとよく読めるようになるまで繰り返し読む。何回でも、何十回でも、何百回でも読むこと」。これが私の答えです。

（3）「音読練習はすべての教科に必要ですか」という質問もよくあります。「英語、国語は必ず行うこと。理科、社会も必ず行うこと。数学も必ず行うこと。音楽、美術、保健体育、技術家庭とパソコン、総合学習やすべての教科についても、音読練習を行うこと。まずは、スラスラと読めるようになるまで、試験直前には、何も見ないでスラスラとよく言えるようになるまで音読練習を繰り返すこと」。これが私の答えです。

（4）「音読練習は何年生になっても行うのですか」という質問もよくあります。小学校でも、中学校でも、高校でも、学校というところは学年が進めば進むほど学習内容が多くなり、また、難しくなってきます。「理解」し、また、身に着ける、つまり「定着」させなければならない内容もどんどん増えます。ですから、「音読練習」をして、正確に身に着けなければならないのは、低学年ではなくむしろ高学年だと「断言」できます。

（5）例えば、「英語」は、英語を習いたての小学 4 年生や中学 1 年生は先生に言われてよく音読をしますが、中学 2 年生になるとほとんど音読しなくなり、中学 3 年生は全く声を出して読まなくなります。いわんや高校生と大学生はなおさら音読をしないと、日本ではよくいわれています。

中国はじめ、海外の英語学習が熱心な国では全く異なります。以前、中国の北京にある北京師範大学に行ったときに実際に見て驚いたのですが、大勢の大学生たちが日曜日の夕方に学校の英語の教科書を音読練習していました。中国の大学の先生にそのことをお聞きしましたら、「当然です。大学生になれば難しい内容の英語を学びますので、それを正確に身に着けるには大きな声を出して読むのが一番ですからね。大事な英語は声を出して何回も読まないと、自分のものとして実際に使えるようにはなりませんからね」との御返事でした。

日本人が少し難しい内容の英語を話すことがあまり得意ではないのは、中学校や高校など高学年になってからの英語の音読が全く不足しているからだと痛感しました。中国をはじめ英語が熱心に学ばれている国では、大学生も英語の音読練習をしている。このことをよく覚えておき、高校入試や大学入試の受験生も、また、高校生や大学生も、一度学んでよく「理解」した内容について音読練習に励んでくださいね。

＊ついでに、英語の学習方法で気づいたことをもう一つお伝えします。日本人が英語があまり得意でない理由の一つは、「音読練習」の不足ですが、もう一つ大きな理由があります。それは、英語の「読解力」の不足です。日本人の多くは、学校の教科書や参考書、定期試験や入学試験のための問題練習ぐらいでしか英語の文章を読みませんが、これだけでは「読解力」はなかなか身に着きません。

・よくお考えになればおわかりになるように、「読解力」を身に着けるには「読書」が不可欠なのに、日本人の多くは英語の本をほとんど読んだことがないからです。日本語につい

ては「1 か月に 1 ～ 2 冊、できれば毎週 1 ～ 2 冊読んで読解力を身に着けよう」などとよくいわれますが、高校 3 年生に今でに英語の本を何冊読んだことがあるかと質問すれば、ほとんどの高校生が 0 冊と答えるのではないでしょうか。

・もしかしたら、英語の本を 1 冊も「読了」せずに大学を卒業した人が日本人の大半ではないかとも思えます。語学を何年も学んでいて、外国語で書かれた本を 1 冊も読み終えたことがないのでは、「読解力」はなかなか身に着かないといえます。

・「読解力」が身に着いていないと、少し難しい内容のことは聞いてもよくわからないし、内容のあることは話すことも、また、書くこともなかなか難しいといえます。ですから、これからは、開倫塾でも少しずつ紹介いたしますので、小学生や中学生、高校生の塾生の皆様はやさしいもので OK ですから、毎月少しずつでも英語の本を読むように努力してください。「読解力」をつけるには、英語も読書が大切です。